

精密工学会賞 第3回 (2007年度)

受賞者業績紹介

受賞者： 松本 和男 氏

松本和男氏は1966年に現在の(株)デンソーに入社し、一貫して自動車部品の生産技術、生産システムの改革に取り組み、高品質で低コストな自動車部品をグローバルに提供する事で、日本はもとより世界の自動車産業の発展に大きく貢献した。特に素形材加工から組立・出荷に至る全自動小型リレー生産ライン(1984年度精密工学会技術賞)、人とロボット・設備を融合した人・機械協調型生産システム(1995年度精密工学会技術賞)を世界で始めて実用化し、その後、市場変動対応型生産システム、設備循環型生産システムなど革新的発想の生産システムを自社において実践、指導するとともに、研究成果を多数の論文として発表し、産業・学術の両面で多大な貢献を果たしている。

また同氏は、第40回大河内記念生産賞を始め、人の官能評価に対応した高速画像処理装置の開発(1996年度計測制御学会技術賞)など生産技術開発に対する功績も大きく、自動車用メータの安定品質・高効率生産方式の開発育成では2005年度文部科学大臣表彰科学技術賞(開発部門)が授与されている。さらに、精密工学会・日本機械学会よりそれぞれフェローの称号を授与されるなど、その業績は高く評価されている。

さらに、精密工学会・日本機械学会の東海支部長、日本機械学会FA部門長、日本設備管理学会会長など歴任し、生産システム、生産技術分野に留まらず、計測・制御分野含めた工学全般の発展に対する功績は多大である。

以上のように、同氏の自動車部品生産技術分野に対する工学的・工業的な貢献は極めて大である。

1968年 京都大学大学院工学研究科修了

同年 日本電装(現在のデンソー)株式会社入社

1998年 デンソー(株)常務取締役

2002年 同社専務取締役

2004年 同社取締役副社長

2007年 同社顧問, 精密工学会フェロー, 工学博士